

(様式3)

## 平成25年度 学校関係者評価報告書

大阪市立昭和中学校 学校協議会

### 1 総括についての評価

※本年度の学校の自己評価結果は妥当である。

生徒や保護者のアンケート結果をふまえた妥当な評価である。項目によっては、学校の自己評価より評価を高めてもよい。

### 2 年度目標ごとの評価

#### 年度目標：学力の向上

- ① 平成26年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連）
- ② 平成25年度末の校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を75%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ③ 平成25年度末の校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくように努めている。」の項目において、「努めている（どちらかといえば、努めている）」と答える保護者の割合を75%以上にする。（カリキュラム改革関連）

#### 「年度目標：学力の向上」に対する学校協議会委員の意見

- 達成状況の評価については妥当である。全国学力・学習状況調査において「家で学校の授業の復習をしている」と答えた生徒の割合が全国平均を下回っているとしても、塾通いも含め、学校の授業以外の学習時間について決して見劣りしていない。地域の実情をふまえ、柔軟に評価してもよい。
- 校内アンケートにおいて、「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」と答える生徒の割合が、高学年では高く、低学年では低い傾向が見られる。アンケートの実施時期の影響もあると思うが、3年間の系統性を持たせたカリキュラムのもと、低学年の指導のさらなる充実を期待する。

#### 年度目標：道徳心・社会性の育成

- ① 平成26年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連）

- ② 平成 25 年度末の校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、80%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ③ 平成 25 年度末の校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答える生徒の割合を 80%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ④ 平成 25 年度末の校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において、「知らされている（どちらかといえば、知らされている）」と答える保護者の割合を、85%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ⑤ 平成 25 年度末の校内アンケートにおける「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、35%以上にする。（カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連）
- ⑥ 平成 25 年度末の校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目について、「取り組んでいる（どちらかといえば取り組んでいる）」と答える生徒の割合を、80%以上にする。（カリキュラム改革関連）

#### **「年度目標：道徳心・社会性の育成」に対する学校協議会委員の意見**

- 校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において、「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答えた生徒の割合が目標を下回っているというが、そもそも、いじめや校内暴力が少ない学校だから、数値が低いのはむしろ当然である。
- しかしながら、「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答えた生徒の割合が 66%に留まっていることを課題と捉え、生徒が教員に相談しやすい人間関係を構築願いたい。
- 生徒、保護者、教職員による校内緑化活動の充実は、情操豊かな生徒を育成する観点から、大いに評価できる。

#### **年度目標：健康・体力の保持増進**

- ① 平成 25 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における女子ボール投げの平均の記録を、全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ② 平成 25 年度末の校内アンケートにおいて栄養バランスのとれた昼食（家庭弁当や学校給食）を取る生徒の割合を 90%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ③ 平成 25 年度末の自己評価において、「保健・健康に関して家庭や地域の保健関係機関との連携を図っている」の項目について「図っている（どちらかといえば図っている）」と答える教職員の割合を、80%以上にする。（ガバナンス改革関連）

**「年度目標：健康・体力の保持増進」に対する学校協議会委員の意見**

- 特に女子生徒の中に、睡眠時間が十分でない者が見受けられる。家庭と一体となって基本的生活習慣の育成に努める必要がある。
- 学校給食の全員喫食制導入を見据え、食育の重要性について丁寧な指導する必要がある。学年・男女間の体格差を考慮し、給食の分量を調節してもよいのではないか。
- 運動やスポーツが「得意」でなくても、「好き」と感じる生徒を育てる教育の実践を希望する。

**年度目標：教職員のICT活用能力の向上**

- ① 平成25年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「授業中にICTを活用して指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を80%にする。（マネジメント改革関連）
- ② 平成25年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「生徒にICT活用を指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を80%にする。（マネジメント改革関連）
- ③ 平成25年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「校務にICTを活用する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教職員の割合を80%にする。（マネジメント改革関連）

**「年度目標：教職員のICT活用能力の向上」に対する学校協議会委員の意見**

- 公開授業等において、授業者のみならず授業を参観する教員もICTを活用した教育に熱心に取り組んでおり、大いに評価できる。
- 全国の学校からICTを活用した教育の先進的な実践事例を集め、さらに取組の深化・充実に努めてもらいたい。
- 私たち学校協議会委員も、学校教育ICT活用事業に係る本校の取組の広報に努めたい。

3 今後の学校運営についての意見

※ 学校の教育活動の広報のあり方について改善を要する。

- ・ホームページの内容の充実
- ・メール配信など、保護者の注意を引くための工夫